

園芸タイムリー情報

《7月上・中旬版》

令和2年 7月1日発行 第4号
 上川農業改良普及センター
 Tel : 0166-84-2017 Fax : 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage : http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

全作物共通

- 天気は数日周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多く、平均気温は平年並か高い見込みです。
- ①ハウスは、高温障害に注意するとともに、低温が予想される日は生育適温を下回らないように管理を行いましょう。
 - ②遮光資材を利用する場合は曇天時の被覆は避け、過度な遮光とならないようにしましょう。
 - ③かん水や分追肥管理を適切に行い、収量の向上を図りましょう。
 - ④害虫の発生が増加します。ほ場観察を行い、薬剤のローテーションを考え、適切な防除対策を実施しましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害 生理障害名		
キスジノミハムシ		
発生状況	こまつな葉部食害	
少発生	ラデッシュ根部食害	
発生時期	キスジノミハムシ成虫 (体長2~3mm)	
6月上旬~		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 成虫は葉、幼虫は根の表皮を食害する。 気温の上昇に伴い、6月から成虫の発生が見られる。 7月~8月に発生がピークとなる傾向がある。 		
<ul style="list-style-type: none"> ●成虫期間：1~4ヵ月 ●卵期間：5~7日 ●幼虫期間：10~20日 ●蛹期間：3~15日 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。 土壌施用剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。 ハウス内外の雑草や残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。 		
<防除の一例>		
こまつな		
●フォース粒剤 4kg/10a は種時全面土壌混和 1回		
チンゲンサイ		
●スタークル粒剤 6kg/10a 定植時土壌混和 1回		
チンゲンサイ・ターサイ・みずな・こまつな		
●モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで1回		


作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害 生理障害名	コナガ成虫	
コナガ		
発生状況	幼虫による葉の被害	
少発生	コナガ幼虫	
発生時期	コナガ幼虫	
5月下旬~		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 幼虫が葉裏に潜み、葉を食害する。 5月上旬に成虫の初発が確認され、5月下旬から幼虫の発生が見られている。 7月下旬に発生のピークとなる傾向がある。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ほ場内外の雑草をこまめに除草する。 防虫ネット（目合1.0mm）は、侵入口となる隙間を作らないよう設置する。 品目により薬剤の登録内容が違うので、ラベルを確認してから使用する。 ジアミド系（プレバソフフロアブル5等）の薬剤抵抗性個体群が出現している。防除効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。 		

作物名	あぶらな科野菜全般
病虫害 生理障害名	ウスカワマイマイ
	
ナメクジ類 カタツムリ類	
発生状況	
中発生	
発生時期	チャコウラナメクジ
5月上旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・葉の食害の他、フンや本体の混入が問題となる。 ・雨上がりや夜間は活発に活動する。 ・6月は雨の日数が多かったことが要因となり、被害の増加が見られることから、今後も注意が必要である。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場周辺の雑草はすみかとなるため、こまめに除草する。 ・スラゴを使用する場合はほ場周辺の雑草地に散布し、作物に直接付着しないように気をつける。 ・ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気の多い場所に好んで生息することから、これらの場所へ重点的に散布する。 	
＜防除の一例＞	
●スラゴ 1～5g/m ² (3.3～16.5g/坪) 発生時	


作物名	すいか・メロン・きゅうり
病虫害 生理障害名	
ハダニ類	
発生状況	
少発生	きゅうり
発生時期	すいか
6月上旬～	メロン
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。 ・高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。 ・ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。 ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。 	
＜防除の一例＞	
●マイトコーネフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 1回	
●ダニサラバフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 2回以内	

作物名	すいか・メロン・きゅうり
病虫害 生理障害名	
アブラムシ類	
発生状況	
少発生	
発生時期	すいかに発生したアブラムシ(左)と被害葉(右)
6月上旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。 ・ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。 ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。 ・ミツバチを放飼しているほ場では、薬剤散布を控える。 	
＜防除の一例＞	
●チェス顆粒水和剤	
きゅうり	5,000倍 収穫前日まで 3回以内
すいか・メロン	5,000倍 収穫3日前まで 4回以内
●モスピラン顆粒水溶剤	
きゅうり	2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内
すいか	2,000～4,000倍 収穫3日前まで 3回以内
メロン	8,000倍 収穫3日前まで 3回以内

作物名	きゅうり・すいか・メロン
病虫害 生理障害名	
菌核病	
発生状況	
少発生	菌核病菌が検出されたすいかの葉の症状(下)
発生時期	
5月下旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・つるの分岐部や果実の花落ち部に白色のかび(菌糸)を生じて腐敗し黒色の菌核を形成する。 ・20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。 ・すいかやメロンでは、着果期を過ぎ、茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。 ・着果期前より予防防除を実施する。 ・被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。 	
＜防除の一例＞	
●スミレックス水和剤	
きゅうり	1,000～2,000倍 収穫前日まで 6回以内
すいか	1,000～2,000倍 収穫7日前まで 5回以内
メロン	2,000倍 収穫前日まで 3回以内
※スミレックスくん煙顆粒は、メロンに登録がなく使用できません。	
●カンタスドライフロアブル	
きゅうり・すいか・メロン	1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内

作物名	きゅうり
病虫害生理障害名	 <p>若齢幼虫に食害された葉の状況</p>
ヨトウムシ	
発生状況	
少発生	
発生時期	
6月下旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 成虫は葉裏に50～100程度の卵を産み、孵った幼虫の体色は緑色で、口から糸を出しぶら下がりながら落下したり、風を利用し移動する。 若齢幼虫は葉のうす皮を残し食害するが、成長につれ、食害痕は大きくなり、被害も拡大する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 発生初期の防除に努める。 下記の薬剤はヨトウムシには登録はないがハスモンヨトウに登録がある。 <p><防除の一例></p> <p>●アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</p>	

作物名	きゅうり
病虫害生理障害名	 <p>←葉表に発生した白いかび</p> <p>初期の病斑</p>
うどんこ病	
発生状況	
少発生	
発生時期	
6月下旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 葉や莖の表面にうどん粉をふりかけたような白斑を生じ、多発生の時は果柄やへたなどにも発生し、商品価値が低下する。 例年、生育後半に発生が多くなるが、本年は日照不足による軟弱な生育のため、早い時期からの発生が見られる。 過繁茂になると発生しやすい。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ほ場を乾燥させすぎない。 初発を確認したら薬剤散布を実施する。 被害葉や果実は摘除し、残さは適切にほ場外へ搬出する。 <p><防除の一例></p> <p>●フルビカフロアブル : 2,000～3,000倍 収穫前日まで 4回以内</p> <p>●ストロビーフロアブル : 3,000倍 収穫前日まで 3回以内</p> <p>※ストロビーフロアブルへの浸透性展着剤の加用は薬害を生じる恐れがあるので避ける。</p>	


作物名	さやいんげん
病虫害生理障害名	
灰色かび病	
発生状況	
少発生	
発生時期	
6月下旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 花弁による感染が主体で、開花後の気象が日照不足で多湿の時に多発する。 莢では最初花弁の付着部に暗緑色水浸状の病斑を生じ、急速に拡大し腐敗し、表面に灰色のかびが密生する。 曇雨天が続いているため、今後多発が心配される。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 曇雨天時でも、ハウスを閉め切らずに換気を行う。 曇雨天が続くときは、発生に注意し発生初期に薬剤を散布する。 <p><防除の一例></p> <p>●セイビーフロアブル20 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内</p> <p>●カンタスドライフロアブル 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内</p> <p>●アミスター20フロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内</p> <p>注：アミスター20フロアブルは浸透性を高める展着剤は加用しない</p>	

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト
病虫害生理障害名	 <p>葉かび病・すすかび病</p> <p>葉裏のカビ 上：葉かび病 下：すすかび病 (病徴では判別困難)</p> <p>葉表の病斑(すすかび病) 令和2年6月29日旭川市内</p>
葉かび病・すすかび病	
発生状況	
少発生	
発生時期	
5月上旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> トマトですすかび病が、ミニトマトで両病害の発生が見られている。 両病害とも葉表に黄色の病斑を形成し、葉裏にかびが見られる。 すすかび病では、進展すると葉表にもかびを生じる場合がある。また、すすかび病発生後に葉かび病も併発する例が多く見られる。 葉かび病は20～25℃、すすかび病は26～28℃で発生しやすく、共に多湿条件で発生が多くなる。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 発生蔓延後の防除は困難なので、予防効果の高いダコニール1000、ベルコートフロアブル、微生物農薬等による予防的防除に努める。 下葉から発生し、徐々に上位葉へ広がるので、ほ場をよく確認し、被害葉の除去と薬剤防除を行う。 <p><発生確認後の防除の一例></p> <p>●トリフミン水和剤 葉かび病：3,000～5,000倍 収穫前日まで 5回以内(※) すすかび病：3,000倍 収穫前日まで 5回以内(※)</p> <p>●トリフミンジェット 葉かび病 50g/400㎡(床200㎡×高さ2m) 収穫前日まで 5回以内(※) (※トリフミン水和剤とジェットは合わせて5回以内)</p> <p>●シグナムWDG 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</p>	

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
病害虫生理障害名		
発生状況	灰色かび病	
発生時期	4月下旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 曇天が続き、葉の病斑、腐敗果の発生するほ場が多く見られる。 20℃位のやや低温と多湿で多発し、特に多湿条件や植物体が濡れている状態が続くことが発生に影響する。 枯れた花弁、がく枯れ部、植え傷みや葉先枯れで傷んだ葉等の枯死部分などから侵入し発生しやすい。 芽かきや摘葉後の枯死部分から侵入し、株が枯死する場合もある。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 芽かきや摘葉は、晴天日の午前中に終わらせ傷口を乾かす。 換気を心がけ、必要に応じて下葉を摘除し通気性を確保する。 夕方の薬剤防除や葉面散布は避け、速やかに乾く晴天日の早朝に行う。 花卉や発病した茎葉、果実は取り除き処分する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●フルピカフロアブル 2,000～3,000倍 収穫前日まで 4回以内 ●ファンタジスタ顆粒水和剤 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●シグナムWDG(※) 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 <p>※ファンタジスタ系統の成分とカンタスドライフロアブルの混合剤</p>		

作物名	トマト類（大玉、ミニ、中玉）	
病害虫生理障害名		
発生状況	アザミウマ類	
発生時期	6月中旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> トマトで産卵痕による白ぶくれ症状が見られた。 高温乾燥年に多発する傾向にあり、今後天候が回復した場合に注意が必要となる。 葉にかすり状の白い食害痕や、果実への産卵で白ぶくれ症状が発生する。 ミニトマトではミカンキイロアザミウマの食害で金粉症状を示す。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ハウス周辺の雑草が多いと侵入が増えるので除草する。 葉の食害や開花中の花を観察し、発生初期に薬剤散布する。 青色粘着板は本種の予察に有効である。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ディアナSC アザミウマ類 2,500～5,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●ウララDF ミカンキイロアザミウマ 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●モスピランジェット ミカンキイロアザミウマ 50g/400㎡ (床200㎡×高さ2m) 収穫前日まで 3回以内 		

作物名	ピーマン・ししとう・なんばん	
病害虫生理障害名		
発生状況	ハダニ類	
発生時期	6月中旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 6月中旬頃から一部ほ場で発生が見られた。 高温で増殖が早くなるため、天候回復後に注意が必要である。 葉表の黄変と葉裏の褐変症状が見られ、加害部位には微少なダニが見られる。 密度が増加してくると細かな糸で巣を作り、薬剤が直接かかりづらくなるため防除が困難となる。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 多発すると防除が難しくなるので、初発を見逃さないようにする。 抵抗性が発達しやすいので各薬剤は年1回のみの使用が望ましい。 天敵（スパイカルプラス）を導入しても発生が目立つ場合には天敵に影響の少ない剤で一度防除を実施する。 <p><防除の一例></p> <p>カブリダニ類導入時に使用可能（なんばんは登録なし）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ニッソラン水和剤 <ul style="list-style-type: none"> ピーマン 2,000～3,000倍 収穫前日まで 2回以内 ししとう 3,000倍 収穫前日まで 2回以内 <p>カブリダニ類導入時には使用不可</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●モベントフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 		

作物名	ピーマン、ししとう、なんばん	
病害虫生理障害名		
発生状況	ヨトウガ・オオタバコガ	
発生時期	6月下旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ピーマンの複数ほ場でオオタバコガの若齢幼虫が確認された。 ヨトウガは6月下旬から1期目成虫の発生が見られる。初め幼虫が集団で葉を食害し、成長に伴い分散し、食害量も増加する。 オオタバコガは飛来性害虫で、既に発生が確認されている。幼虫は一頭ずつ分散し、果実へ食入する性質が強い。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 成長した幼虫には薬剤が効きづらくなるので、発生初期に登録のある薬剤で防除を行う。 <p><防除の一例></p> <p>カブリダニ類導入時にも使用可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ●プレオフロアブル <ul style="list-style-type: none"> タバコガ類 1,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●ゼンターリ顆粒水和剤 <ul style="list-style-type: none"> ヨトウムシ1,000～2,000倍 オオタバコガ1,000倍 発生初期但し、収穫前日まで 回数制限なし <p>カブリダニ類導入時は使用不可</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コテツフロアブル <ul style="list-style-type: none"> オオタバコガ 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 		

作物名	花き類全般													
病虫害 生理障害名														
ハダニ類														
発生状況														
少発生														
発生時期														
6月中旬～	きくに寄生した状況 (葉裏)	葉が褐変した シネンシス系スターチス												
発生の状況・要因														
<ul style="list-style-type: none"> 一般的には高温期やかん水制限を行う時期に発生が多く、葉裏を中心に寄生する。 発生初期は葉表に白いかすりや退色を生じるが、密度が高くなると葉は褐変、黄化する。 スターチス・シヌアータでは下葉が赤くなる。 発生ほ場の管理作業により衣服に付着し、他ほ場へ拡散し被害が拡大する。 														
対策														
<ul style="list-style-type: none"> 発生初期の防除に努め、葉裏に十分かかるよう散布する。 <p><防除の一例></p> <table border="0"> <tr> <td>●ダブルフェースフロアブル</td> <td>2,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>●カネマイトフロアブル</td> <td>1,000倍</td> <td>—</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>●ダニサラバフロアブル</td> <td>1,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>2回以内</td> </tr> </table> <p>※カネマイトフロアブルは「ばら」に登録なし</p>			●ダブルフェースフロアブル	2,000倍	発生初期	1回	●カネマイトフロアブル	1,000倍	—	1回	●ダニサラバフロアブル	1,000倍	発生初期	2回以内
●ダブルフェースフロアブル	2,000倍	発生初期	1回											
●カネマイトフロアブル	1,000倍	—	1回											
●ダニサラバフロアブル	1,000倍	発生初期	2回以内											

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
※掲載されている農薬情報は、令和2年6月30日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□ GAP手法の活用 【農薬編】□■□■□■□

—異物混入防止は整理・整頓・出荷時の確認から—

- ・収穫コンテナ類は汚れがないように管理し、破損している場合は速やかに補修または廃棄しましょう。
- ・調製に使う器具は、使用前後に数を確認し、整理整頓を行きましょう。
- ・異物が混入しないよう、作業場所を整理し、目視確認を行きましょう。
- ・飲食は農産物に影響がない場所で行いましょう。
作業場所と隔離されていない場所で飲食する場合は、飲食後に清掃し、必要に応じて殺菌し、農産物の衛生に影響がないようにしましょう。